

千葉県東葛飾地域における女性農業者の社会参画の現状と課題

千葉農業事務所 ○高野美奈子
東葛飾農業事務所 鈴木 幸子
東葛飾農業事務所 坂本裕美子
昭和女子大学 粕谷美砂子

1. 本研究の背景及び目的

千葉県では、平成 23 年度に策定された「第 3 次千葉県男女共同参画計画」の中で、農林水産業における男女共同参画社会の実現に向け、女性農業者の経営参画と社会参画への一層の取組が位置づけられた。特に政策・方針決定の場への女性の登用促進の重点的な取組が示され、指標として農業協同組合の女性役員、女性農業委員の数値目標を掲げている。

千葉県東葛飾地域では、都市化が進んでいるものの県内有数の野菜と果樹の産地である。女性の農業従事者数は全体の半数を占め、その力は今後の地域農業、農業経営の継続に欠かせない。しかし、女性農業者の県段階組織への加入はなく、地域段階では「組織の役員や行事への参加が煩わしい」、「家族の合意が得にくく参加しづらい」等の理由から組織活動はもとより社会参画への意欲が弱い状況にあった。そこで、本研究の目的は、女性農業者の社会参画へ対する内外の意識の実態を調査し、課題を分析し、今後の女性農業者の社会参画推進のための活動方法の一助にすることである。

2. 調査方法

調査対象は、普及事務所が関わっている女性組織と東葛飾管内の 3 農業協同組合女性部の役員を中心とした。アンケート調査は、郵送もしくは研修会での配布とし、平成 24 年 9 月～11 月にかけて実施した。参考までに男性農業者にも同方法で調査を実施した。

3. 結果

①調査票配布数、回収数、回収率、年齢、経営類型等：配布数、回収数、回収率は、女性農業者 137 名／226 名、回収率 59.3%、男性農業者 50 名／130 名、回収率 38.5%であった（男性農業者の数値については以下人数を記載）。回答した女性農業者の主な経営類型は、露地野菜が 59.1%、施設野菜が 24.1%、果樹（梨）18.3%、稲作 15.8%である。女性農業者は、69.2%は嫁、18.4%は跡取り娘であり、11.7%は養子縁組をしている。

②組織の役職経験：農協女性部や農村女性グループ等の組織の役職経験の有無では、「過去に就いた」が 29.9%、「現在就いている」が 32.8%であり、役職経験者は併せて 6 割であった。役職を引き受けての変化は（複数回答可：86 名中）「自分の視野が広がる」48 名、「責任を感じるようになった」45 名と半数以上が自分自身の変化を実感している。また、役職を引き受けて「不都合なことはない」が 31 名である一方、「自分の時間が少なくなった」と回答した者は 30 名であり、農業労働以外の自分の時間を使って役職をこなしている。参考までに男性農業者（50 名中）への「妻が役を引き受けて不都合なことはあるか」では、「仕事が忙しくなる」21 名、「家事をやる人がいなくなって困る」14 名、「自分が家事をやらなければならない」11 名と女性の仕事と家事への貢献度の高さがうかがえる。

③女性農業者が社会参画することへの家族の応援：女性自身が社会参画することを家族は応援するかでは、「応援してくれる」28.5%、「応援してくれるかどうかわからない」26.3%、それさえも「わからない」は 17.5%であった。男性農業者は「応援する」37 名、「応援しない」4 名であった。

④社会参画に対する地域の風潮：女性農業者は、「地域に女性が社会参画することを嫌がる風潮がある」とは「感じない」34.3%(47名)、「感じる」28.5%(39名)、「わからない」21.9%(30名)であった。同じ質問で男性農業者(50名中)は、「感じる」17名、「感じない」13名、「わからない」16名であった。女性も男性も、女性の社会参画を嫌がる地域の風潮は昔よりは和らいでいるともとれるが、嫌がる風潮を感じている者が一定程度いる。

⑤将来役職に就くか、役職を引き受けたくない理由：将来役職に就くということに対しては、農村女性団体やJA女性部役員は、「順番だったらやる」が、JA理事、農業委員は非常に少なく、積極的な回答は1~2名であった。役職を引き受けたくない理由としては「人前での発言は苦手」、「仕事が忙しくてやってられない」が多かった。

⑥女性が社会参画することについての考え：女性が社会参画することについての考えとして(複数回答可)女性農業者は、「夫や家族の理解・協力が必要」79.6%(109名)と8割が回答しており、「家族の協力も必要だが自分自身のやる気、意思が大切」が76.6%(105名)、「女性の意見をもっと地域づくりに反映させることが必要」67.9%(93名)と自分自身の意思と女性の意見の重要性を、女性農業者自身が認識している。「地域づくりに参画するためには、法律や制度を学ぶことが必要」59.9%(82名)、「女性が人前で意見を言えるためには勉強し資格を持つことは大切」59.1%(81名)と自身の資質の向上を掲げている。同様の質問に対して男性農業者(50名中)は、「家族の協力も必要だが、自分のやる気・意思が大切」43名、「夫や家族の理解・協力が必要」42名、「意見を出せるよう、意見交換や議論する場を設けることが必要」41名、「勉強して資格を持つことが大切」37名、「女性の意見をもっと地域づくりに反映させることが必要」37名と女性農業者の地域での活躍を期待し、そのやる気と、そのための資質の向上の必要を望んでいる。男女ともに女性の社会参画の必要性を強調しているが、そのための資質を身につける必要性を感じている。

4. 結果とまとめ

女性農業者の社会参画への意識として、女性自身が「男女の固定的な役割分担意識」と、家族への気兼ねがある。一方では、女性の意見をもっと地域へ反映させることは重要と考え、そのためには、資質の向上が必要だと感じている。現在加入している組織の中で、役員は順番ならやるという意見が、回答した中では多かった。役員を引き受けることで、視野が広がり、責任を感じるようになり、自分自身が変わっていくことを感じている。農業委員、JA理事となるとまだ尻込みしてしまう傾向が強いが、他の組織やグループの役職経験者へ第三者が後押しをすることで役職を引き受ける可能性もある。

女性農業者の組織は、高齢化し、若手が加入しない状況にある。女性農業者の社会参画へは、何らかの組織への加入と役員の経験、さらに、学習の「場」の設定が必要である。男性農業者には、若い段階からこのプロセスが常に用意され、経験を積み上げていけるが、女性農業者にはまだ十分とは言えない。現在、若手女性農業者の育成を行なっているが、地域の中で軸足を置く、自分たちの組織づくりが、次へのステップとして重要である。

本研究はJSPS科研費24500906「日本の農山漁村における持続可能な生活経営と女性農業者の情報アクセスに関する研究」(研究代表者：粕谷美砂子)の助成によるものである。